（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（　八代清流高等　）学校　令和４年度（２０２２年度）学校評価表

１ 学校教育目標
一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする。 （１）他者と共によりよく生きるために、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下、「自律」した行動のとれる生徒を育成する。 （２）持続可能な社会の創り手となるために、現代的な諸課題に「進取」の気概をもって挑戦し、粘り強く課題解決する生徒を育成する。 （３）多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓くために、文武両道に努めて心身を「錬磨」し、活力ある逞しい生徒を育成する。

２ 本年度の重点目標
（１）自律（徳）「自律（自立）した行動がとれる生徒の育成」 （２）進取（知）「主体的・対話的で深い学びのある授業の提供」 （３）錬磨（体）「特別活動の充実と部活動の奨励」

３ 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	地域の進学希望者の夢を叶える	自律した行動がとれる生徒の育成	①自己管理能力の育成 ②安全教育・防災教育の充実 ③保護者や地域との連携	①ポートフォリオの記録やスケジュール管理、健康観察等でタブレットを有効に活用する ②施設の整備・点検や防災避難訓練を実施する ③情報の発信により生徒理解を深める	B	①生徒自身が自分の活動を記録したり、日頃の健康状態を把握したりすることで、自律した行動力の育成を図った ②校内安全点検と避難訓練をそれぞれ年２回実施し、安心安全な環境作りや防災意識の向上を図り、危機管理や命の大切さを学ぶ機会とした ③ＨＰの掲載手続きを簡略化し、更新頻度を上げた。中学校説明会や学校通信で学校の様子や雰囲気を外部に発信した
		主体的・対話的で深い学びのある授業の提供	①指導と評価の一体化 ②基礎基本の定着とＩＣＴの活用 ③総合的な探究の時間の充実	①指導と評価の一体化を目指した観点別評価のために、２、３年次の単元シラバスやルーブリックを作成する ②タブレットを効果的に活用する ③プロメプランの対話や実践を通して探究的な課題解決能力を育成する	A	①１年次の単元シラバスを作成し、計画的な授業実践ができた。２・３年次についても年度内に完成予定である。職員研修では、生徒に観点別評価の意義や内容をどう伝えていくか、課題を共有した ②資料の共有やアンケート、授業配信等が日常的になった。更に効果的な活用方法の研究や検証を進めていく ③全体計画や実践内容を大幅に見直し、校外活動や外部連携の機会を増やすことで活動が活性化した。探究テーマを深め

						課題解決まで到達することが今後の課題である
		特別活動の充実と部活動の奨励	①地域への貢献 ②生徒会活動の充実 ③部活動の奨励	①各種ボランティア活動に積極的に参加する ②生徒が主体となって学校行事を運営する ③学校通信やＨＰで生徒の活躍や戦績等を発信する	B	①八代海河川・浜辺の大掃除には毎年１００人以上が参加し、地域の奉仕活動に従事した ②文化祭や体育大会の準備や運営、校則の見直し等、生徒が主体となって取り組んだ ③部活動の大会結果をＨＰに即時掲載したり、学校通信で紹介したりして生徒の活躍を発信した
	魅力ある学校づくり	学校の魅力発信	効果的な広報活動による認知と好感度のアップ	①中学生や保護者へのＰＲを充実する ②ＨＰの掲載手続きや操作方法を簡略化し、更新頻度を上げる	B	①中学校説明会やオープンキャンパスでは、単位制の魅力や自由で活発な学校生活の様子を動画やスライドで説明した ②部活動の大会後すぐに情報が発信できるように改善した
		単位制カリキュラムの見直し	多様な進路に対応した多様な科目選択による個別最適化された学びの提供	①２年次の選択科目の幅を広げ３年次の選択群を再構築する ②進路変更へ柔軟に対応できるシステムに変更する	A	①新教育課程に対応した個別最適化された学習環境を実現する教育課程表を編成した。具体的な運用について構築する ②前・後期科目選択制度の見直しを図るとともに、複雑な科目登録のシステムや手続きを整理し、全職員の理解をすすめる
	業務改善・働き方改革	意識改革や業務改善により、やりがいのある職場環境の構築	業務改善や働き方の見直しによる時間外勤務の短縮	①ＩＣＴを活用した情報共有やデジタル化による時間短縮及びペーパーレス化を図る ②毎週水曜日を一斉下校・定時退勤日とし、時間外勤務を短縮する	B	①連絡サイトの構築や会議等の資料をデジタル化することで大幅なペーパーレス化を図った。会議の議事録を共同編集活用し、業務の見える化を図った。職員のＩＣＴ活用スキルを更に向上させ、多種多様なデータ管理や運用を行う ②部活動数の削減による負担軽減及び部活動休養日と定時退勤日を統一したことで時間外勤務の　につながった
学力向上	新学習指導要領に基づいた深い学びの実践	教職員の授業力向上の取組み	・授業力向上を目指した研究授業の実践	①新学習指導要領に基づいた授業評価及び授業改善、ＩＣＴを活用した主体的・対話的で深い学びの具体的な取り組みを行う ②グループ研修や研究授業の実践を計画的に行う	A	①シラバスを作成し、新学習指導要領に基づいた学習計画を立て、教科内で共通認識をもって授業を行った。各教科で言語活動やアクティブラーニング型の授業を取り入れ、より生徒が主体的に学ぶ授業作りに努めた。 ②授業研修週間では、言語活動を多く取り入れ、端末を活用した授業を実践するとともに、教師間で授業を見学し、意見交換を行った

	主体的に学習に取組む生徒の育成	生徒の自主的な家庭学習への取組	・家庭学習時間を増やすための工夫と学習方法の指導 ・予習・復習の徹底と家庭学習時間の把握と活用	・授業アンケートを基に各教科で家庭学習習慣の定着に向けた方策を検討する ・面談週間や家庭訪問等で学習の仕方のアドバイスを行う	C	授業アンケートでは、「先生の予習・復習の指示や学習課題の量は十分である」という項目に生徒は３９．１%が「ややあてはまる」、５５．４%が「とてもあてはまる」と答えている。一方で、教師は生徒の予習や復習、学習内容の定着が不十分であると感じており、生徒と教師が目指すべき学習の量の認識が共通理解できていなかった
キャリア教育	地域や社会と結びついた進路意識の高揚	高等教育機関の理解を深め働く意義や社会の一員としてより良く生きるための職業観・勤労観の育成	様々な学習体験を通して、学問や職業には多くの分野があることを知り、自分の道を見つけようとする態度の育成	①高大連携出張講座、大学訪問、大学説明会、進路講演会、キャリアプランニング活動（インターンシップ・出前講座・公開講座）に主体的に参加する ②総合的な探究の時間に外部機関や大学と連携する ③保護者向け進路講演会を実施する	B	①１、２年次を中心に８大学による大学出張講座を実施した。大学訪問は実施できなかった。進路講演会は、内容を含め年次とより連携する必要があった。保育実習及び小学校算数教室は校外で実施し、看護講座はオンラインで実施した。２年次の約４０名が大学（熊本大学、熊本県立大学、九州大学）の講座を受講し、上級学校の学問を体験した ②総合的な探究の時間では、企業や学校等に出向き職業観や勤労観の育成につなげた。警察や自衛隊、企業と連携を密に取り、就職指導を行った ③保護者向け進路講演会は、３月に実施予定である
		進路選択における意識の向上と取組	自ら進路に向き合い、校内外での諸活動に主体的に行動できる生徒の育成	①年間６回の面談や進路ガイダンス、ＬＨＲや総合的な探究の時間を活用し、進路学習を実施する ②総合的な探究の時間で興味関心を深める探究活動を実施する	B	①面談は、科目選択の時期に合わせて実施した。進路学習は、ＬＨＲで学部・学科調べを行ったが、十分な時間を確保できなかった ②３年次生は将来の職業について、現状や課題についてレポートを作成し、上級学校での学びと関連させる探究活動を行った
	進路実現に向け、主体的に行動するための環境づくり	生徒の進路希望及び学力、学習時間、得意分野、特技等の把握と学力の向上	進路希望調査や模擬試験結果の有効活用と課外授業の充実	①進路希望調査及び情報共有のために進路検討会を実施する ②課外授業やタブレットを活用した学び直し、基礎基本の繰り返し学習を実施する ③模擬試験やス	B	①２年次は、企業を交えた進路検討会を行い、学習状況の共有を図った。３年次は、各入試の出願前に形態について会議を行い、大学の情報を共有した ②朝学習ではタブレットを活用し、英単語等の基礎的事項の繰り返し学習を行った。１年次は、朝学習の時間に数学を中心とした中学校までの内容の学び直しの時間を確保した

				タディサポートから学習時間や苦手分野を把握し、改善のため年次会や各教科会で分析会を実施する ④キャリアパスポートを活用し自己を振り返る時間を確保する		③スタディサポートを活用し、各年次で学習時間や苦手分野、悩み等について情報共有を行った ④キャリアパスポートに記入する時間を計画的に立てているが、各クラスで時間の確保が徹底できなかった。生徒の自主性や継続的な取組という観点から課題が残った
		コミュニケーション能力の育成	小論文指導や面接指導の充実	①総合的な探究の時間や朝学習を活用し、小論文の学習を実施する ②全職員で小論文、面接、グループディスカッション等を指導する ③口頭試問の個別指導を実施する	B	①小論文は、朝学習に文章の要約や内容の読み取りを計画的に実施できた。ＬＨＲでテキストや動画を活用した学習を行ったが、十分な時間を確保できなかった。 ②面接は動画を活用し、生徒が自主的に面接の事前準備に取り組んだ。総合型選抜や学校推薦型選抜の受験者が増えており、一人一人に十分な時間をかけられない場面があった。教材の導入や志望理由書のポイントを進路指導部として検討したい ③口頭試問は、必要に応じ、継続的に指導を行った。
		進路指導力の向上	生徒や保護者の進路相談に対する的確な資料の提示や助言	①複数回、複数人での進路面談と記録による継続的な指導を行う ②進路検討会を実施する ③学校説明会に計画的に参加し情報を共有する ④進路指導関連情報を年次連絡会等で発信するとともに、個に応じた情報を発信する	B	①科目選択で悩む生徒に対し、担任以外との面談を実施した ②２年次で特進クラス検討会を行い、どのような方針や計画でクラスを設定するのか、年次主任、進路指導主事、特進クラス担任、授業担当者で協議した ③学校説明会後、報告レポートを作成し、情報の共有を図った ④進路指導関連情報の発信を行っているが、積極的に情報収集する生徒をより増やすために、個に応じた声かけを更に進めていく必要がある
生徒指導	生徒の自律心と自尊心の育成	自ら判断し、行動できる生徒の育成	・生徒会及び各種委員会活動の充実 ・服装や生活態度を自ら確認する習慣の育成	①学校行事等に生徒会が中心となって企画運営に協力して取り組む ②定期的に各種委員会を実施する	B	①学校行事等に生徒会執行部を始め、各種委員会が積極的に関わることができた ②定期的な各種委員会の開催により、生徒会活動を円滑に行うことができた ③生活委員会を中心とした生徒間で身だしなみの大切さを

				③生活委員会と生徒会を中心に生徒の自己点検や自主的な確認を促す		訴えかける取組が不十分だった
		基本的生活習慣の確立	時間の厳守 挨拶の励行	①５分前行動を徹底する ②語先後礼を周知し、挨拶運動に取組む	C	①全校集会等の多くがリモート開催となった影響から時間に対する意識の低下が見受けられた ②「礼に始まり礼に終わる」というメリハリのある行動が、学校生活の充実につながることを伝えきれなかった
	明るく楽しい学校づくり	規範意識が高い生徒の育成	生徒間交流の実施や部活動の充実	①生徒会企画で全学年参加の行事を実施する ②部活動を中心とした地域の清掃活動への参加を促す	C	①コロナ禍により予定していた活動ができなかった面も多かったが、できる範囲で活躍の場面を設定した ②多くの生徒が部活動で活躍をみせた。球磨川河口域の清掃活動に積極的に参加することもできた
	交通指導の強化	交通マナーの向上	・交通安全教育の徹底及び加害事故０件 ・自転車の鍵かけ（二重ロック）推奨	①年度当初に交通講話を実施することで、交通安全意識の高揚を図る ②自転車点検時に二重ロックの確認を行う	C	①交通講話の実施直後は交通安全の意識を高めることができたが、機会があるごとに安全意識について呼びかける必要性を感じた ②自転車の施錠については、私物の管理意識を高める観点から根気強く継続的に呼びかけを行っていく
人権教育の推進	命を大切にする心を育む指導	命を大切にする心を育む取組の充実	授業、学校行事、特別活動等のあらゆる場面において人権尊重の理念に立った取組	全教科全領域で「生徒の命を大切にする心」を育む指導を行い自らの存在を肯定的に捉えられるような教育活動を行う	A	全教職員が授業やＬＨＲ、学校業事等で人権教育を実施した。自己肯定感を実感できる機会を多く設け、自分自身だけでなく他者の命も尊重できる意識を向上させた。人権教育講演会では、交通死亡事故遺族の方に被害者の立場でお話していただき、命の大切さを学ぶ機会を設けた
		自分の夢や目標の明確化	キャリア教育の充実を図るとともに、人の役に立つことや他者の価値観を尊重する姿勢の育成	①進路目標の設定、目標に向けた授業の選択、総探の発表会等を通して目標達成のための具体策を考えさせる ②学校行事やボランティアに積極的参加を促すことで自己有用感を醸成する	B	①ＬＨＲや総合的な探究の時間を活用し、進路目標について適性や能力を考慮しながら目標設定から達成までの具体策をそれぞれ考えさせた ②学校行事をできる限り実施することやボランティア活動をタブレットの掲示板に掲載することで、主体的な活動への参加を促した ③単位制面談や個別面談の時間を設け、充実を図った。生徒

				③単位制面談や個別面談を充実させる		の興味関心や希望に応じて個別面談を実施するとともに科目選択を充実させ、目標実現に向け、考える機会とした
		部落差別をはじめとする個別的な人権課題に対する理解と啓発	新型コロナウイルス感染症に関する人権問題事案の未然防止	①身近な差別や水俣病・ハンセン病と同様に新型コロナウイルス感染症に対する偏見や差別が生じないよう正しい知識や情報発信を行い、人権感覚を養う ②３年間で９回の人権教育ＬＨＲを実施する	A	①全職員により、ほぼすべての分野で指導ができた。啓発ポスターを昇降口や掲示板に掲示した。新型コロナウイルス感染症についてリーフレットや安心安全メール等を活用し、生徒のみならず家庭にも情報発信ができた。人権教育講演会では命について沈思黙考ができた ②１年次より計画性をもって系統的、体系的にＬＨＲを実施し、知識の進化を図っている
	職員の人権意識の高揚	職員研修の充実と人権教育の視点に立った指導の実践	校内研修会の計画的な実施を通して人権意識の向上と生徒との信頼関係の構築	①年間３回、校内外の人権教育研修に参加する ②一人一人を大切に、それぞれの能力や適性に応じた指導、支援を行う	A	①計画通り年間３回の研修が実施できた。研修の感想や意見を集約・共有し、人権問題を多面的に捉え、解決の糸口とした ②身体的な特性のある生徒には要望に応じた配慮を行った。特別な支援を要する生徒に別室の準備や相談体制の確立等、最大限の配慮を行った
	生徒の人権意識の高揚	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	他者を尊重する意識・意欲・態度の育成	①ＬＨＲをはじめ各教科で人権教育に取組み、各部署と連携した人権課題に日常的に触れる機会を作る ②生徒主体の啓発活動（いじめ撲滅宣言等）を行い、保護者や地域に発信する	A	①全生徒による人権作文を作成し、他者を尊重する意識や意欲、態度を育成した 保健室や図書館等と連携し様々な取り組みを実施した。 ②生徒会を中心に人権意識を高揚させる啓発を行った。八代地域児童生徒実行委員会に参加し、小中学生と共に「人権子どもフェスティバルinやつしろ」を成功させた
	いじめの防止	生徒の背景を把握した適切な支援・指導	生徒の背景について共通理解を図り、いじめ防止につなげる	①生徒理解研修を年間３回実施する ②保護者と連携し、生徒に必要な支援や指導を全体で行う。職員間で情報を共有する ③外部指導員（ＳＣ、ＳＳＷ等）を活用し、適切な助言を得る	A	①４、６、１１月に生徒理解研修を実施し、課題を抱えた生徒について共通理解を図った ②１１月研修時には「自傷行為と希死念慮」についてＳＣによる講話を実施し、全職員で生徒理解の視点を学んだ ③心配な生徒については早期にＳＣへとつなぎ、ＳＳＷと連携した支援も行った。必要に応じて保護者と連絡をとり、こまめに面談等を実施し、支援にあたった

		いじめの未然防止の働きかけ	豊かな情操や道徳心、社会性の育成	①朝読書の時間を確保し、充実させる ②芸術鑑賞会を実施し、情操教育の充実を図る ③ストレス対処ＬＨＲを実施する	Ａ	①定期テスト後、２週間ずつ実施した。 ②今年度は演劇「ヘレンケラー～ひびき合うものたち～」を鑑賞した。 ③前期１回、後期１回、全年次を対象にストレス対処教育ＬＨＲを実施し、ＳＳＴに取り組んだ
	いじめの早期発見	アンケートによるいじめの早期発見	いじめの実態を把握し、迅速かつ適切に対応	１、２年次生は３回、３年次生は２回の生徒・保護者アンケートを実施し、結果を速やかに共有する	Ａ	アンケート実施後の対応マニュアルを全職員に周知し、注意を要する回答については当日中に共有し、迅速な対応ができる態勢づくりを行った。職員、生徒には会議や校内放送を通して結果を報告し、問題点の共有を図った。学期ごとに外部指導員を含めたいじめ問題対策委員会を開催し、共通理解を図った。
		担任との面談によるいじめの早期発見	生徒一人一人に対するきめ細やかな観察力の向上	日頃から生徒に対する声かけを積極的に行いいじめの早期発見に努める。面談週間等を活用し話しかけやすい雰囲気や環境づくりに努める	Ａ	①生徒の観察と声掛けを職員に呼び掛け、面談週間を活用して担任、副担任を中心に生徒の心身の状態を把握した。「心と体の振り返りシート」を基に、サポートの基準ラインを超えた生徒への面談を行い、必要に応じてＳＣへとつなぎ、問題の早期発見に努め、早期対応を行った
		スクールカウンセラーとの連携による生徒状況の把握	専門的見地からの助言による生徒の状況把握及び問題の早期発見	スクールカウンセラーの来校日を周知するとともに、アンケート結果をもとに積極的に面談につなげる	Ａ	スクールカウンセラー来校日を行事予定表や教育相談だよりで周知した。アンケートで不安を訴えた生徒を中心に積極的にカウンセリングにつなぎ、ＳＳＷとも連携して支援にあたった。希望者が多く、カウンセリングの順番待ちが出てしまう点が課題である
	「心のきずなを深める」ための取組	「心のきずなを深める月間」における取組みの充実	生徒が主体的にいじめ防止について考えるための取組	①保健委員会できずなを深めるメッセージカードを記入し、教室に掲示する ②図書委員会できずなを深める本を選書し、紹介する ③全校生徒で、きずなを深める	Ａ	①「自分と他者を大切にし、きずなを深めよう」をテーマに、フルーツ型のカードにメッセージを書き、広用紙で作った木に貼る「きずなの木」作成を、保健委員を中心に行った。作品を教室に掲示したことで、他者を大切にし、いじめを許さない雰囲気の醸成につながった。 ②図書委員は「なかま」をテーマに選書し、図書室内にコーナ

				標語づくりに取り組み、他者の作品に触れることでいじめ防止の感覚を高める		一を設けて紹介を行った。 ③全生徒に「きずなを深める」標語作り、美術部、書道部をはじめ有志にポスター、書を募集した。標語は県の主催するコンクールに出品した。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙ等）	総合型コミュニティスクールの推進	学校運営協議会を通じた連携協力体制の構築	本校教育への理解と協力による学校の活性化	学校運営協議会を年２回実施し学校や地域の課題を協議する	A	本校教育活動の取組や課題について意見交換を行い、様々な提言を得るとともに、地域連携や協力体制について確認した
		熊本地震や県南豪雨を教訓とした防災体制と防災教育の取組	学校防災マニュアルの運用と研究	学校防災マニュアルを周知し、生徒引渡しや備蓄について協議する	B	防災マニュアルを全職員に配布し、災害時の行動について確認した。備蓄品の消費期限等を確認し、データ化した
			地域と連携した防災教育の充実	防災避難訓練の見学や防災教育ＬＨＲについて協議する	B	コロナ禍により地域と連携した避難訓練は実施しなかった。地震と火災に分けて訓練を実施、避難経路を確認し、迅速に行動ができた
	地域とともにある学校づくり	地域理解や保護者との信頼関係の構築	探究活動を通した地域貢献や学校行事の協働活動による生徒の育成	総探や学校行事を通して、地域や育友会とより良い関係づくりに努める	B	校外の調査研究活動の活性化やコロナ禍における行事の一部参観及びオンライン配信の充実等、可能な範囲で生徒の活動の様子を地域や保護者に伝えることができた

４　学校関係者評価

【学校経営】

・単位制カリキュラムについては、シラバスにより授業のゴールを生徒と教師が共有することは大変良い取り組みだと思います。生徒にとっても授業選択の指標になるとともに学習効率の向上にもつながると思います。

・プロメプランは優れた教育方策であり、これを更に深めて課題を解決できる力を深めていただきたい。

・タブレットが有効活用されていて良いと思います。魅力発信は、ＨＰの更新頻度を上げてもらえば見る側も楽しみになります。

【学力向上】

・授業の充実については、他の項目の成果等からも十分取り組まれていることが把握できました。

・家庭学習については、指導が難しい面もあるかと思いますが、量的な部分だけでなく、質的な家庭学習の向上に向けた取り組みが今後実践されることを期待します。

・家庭学習と学習内容の定着に努力されていることが窺えます。事前準備反復確認という行動は、社会人になるとより重要で、組織においても求められます。引き続きの取り組みを期待します。

・教師間での授業見学や意見交換で意識の向上が図られていると思います。

・予習、復習がもっとできるように、どのように取り組むのか具体的に生徒に伝えてほしい。

【キャリア教育】

・進路指導に関しては、面談等により生徒に寄り添った指導をされている印象を受けました。

・文章力、表現力は、将来的にも必要不可欠な力であり、受験に際しても少しの工夫で他の受験生と差を付けることができる部分だと思いますので、引き続き試行錯誤していただきたい。

・口頭試問対策については、学外と連携した取組等を行われてもよいのでないかと思います。

・個々に応じた取り組みが必要な分野であるので、できるだけ時間の確保ときめ細かな対応をしていただきたいです。

・来年度は、大学訪問ができたらいいと思います。また、面談に十分時間を確保してもらいたい。

【生徒指導】
・自己評価が低い項目については、次年度以降の取り組みに期待します。
・コロナ禍の教育困難な部分が表れていると感じました。「空白の期間」をできるだけ埋めるように、人間性を高める教育を続けていただきたいです。
・生徒会を中心に活動ができている。
【人権教育】
・生徒だけでなく職員についても研修等により堅実に人権教育の推進が図られています。
・非常に丁寧に人権教育を継続されていると感じました。これからの社会では大事な分野であり、社会に出て役立つと思います。
【いじめの防止】
・ＳＣやＳＳＷの活用は、順番待ちが出るほどと聞き、自分で抱え込まず相談しようという姿勢は良いことだと思います。
・いじめ防止と早期発見に努力されていることがよく分かります。生徒とのコミュニケーションを大切にしてください。
【地域連携】
・総合的な探究の時間を活用して、地域に目を向ける取り組みが充実していると感じています。
・八代市が実施する未来創造塾を取り込んだ時間を作っていただいたことは、地域で事業を営む塾生にとって良い機会になったと考えます。
・地域学習や探究活動の経験や成果が、上手く生徒のキャリア形成につながることを期待します。
・地域との連携をやりにくい社会状況でしたが、今後は取組を広げていかれることを期待します。
【その他】
・全体を通して、学校経営やキャリア教育の項目が生徒に寄り添った取り組みを実施されている印象を受けました。
・３年生は、コロナ禍の入学で制限の多かった学校生活、そしてコロナ禍の中、卒業されます。そういう厳しい社会環境の中で今できることを見つけて、しっかりと成長してきました。卒業おめでとうと心から伝えたいです。
・生徒指導は、良いことも悪いこともきちんと時間を取って指導をお願いしたい。

５ 総合評価

自己評価は全職員にアンケートを実施し、１～４段階評価で平均３．０以上をＡ、２．５以上～３．０未満をＢとした。全項目の平均値は、２．８７であり概ね目標を達成できたと考えている。特に学校経営については、学習評価とＩＣＴ活用の取組、総合的な探究の時間と単位制カリキュラムの再構築が高い評価を得た。また、人権教育といじめ防止については、ほぼすべての項目がＡ評価であり職員研修の充実や外部人材の有効活用、ケース会議等、係や各年次を中心としたきめ細かい対応の成果であると捉えている。一方で、生徒指導に関する項目の評価が低く、指導が不十分だと感じており、生活指導や交通安全教育等、次年度の課題であると考えている。

６ 次年度への課題・改善方策

・熊本スーパーハイスクール構想では、イノベーションハイスクールの指定を受け、総合的な探究の時間（プロメ・プラン）の深化・発展や高校間連携（One Teamプロジェクト事業）を通して、地域に貢献する人材育成のフロントランナーとしての役割を果たしていきたい。
・令和２年度から２年間、国立教育政策研究所の指定による学習指導と評価方法の工夫改善の取組を踏まえ、継続して学習評価の実践研究に取り組む。
・交通安全教育やＳＮＳの正しい使い方を含めたデジタル・シチズンシップ教育を推進し、生徒の命を守る教育の充実を図る。